

2021年度 事務局だより

NO.7 (通算 NO.15)

2021・6・20

一般社団法人

示現会

○ ホームページ案内

裏面 ○<特集> 巡回展報告
○<特集> 作品の解説

写生に行きたい、という声が届きます。なかなか先が見えないのですがようやくワクチン接種が始まりました。これで状況が変わるとよいですね。

ホームページを案内します。ぜひご利用ください。

示現会ホームページでは開催された示現会展の様子、示現会の歴史、支部の活動、研究会の案内、示現会館で開催される絵画教室等いろいろなことが一目で見えます。
今回新しい試みとして第74回示現会展の各部屋を動画で案内しています。

ボタンが大きくなり見やすくなります

示現会の ホームページ

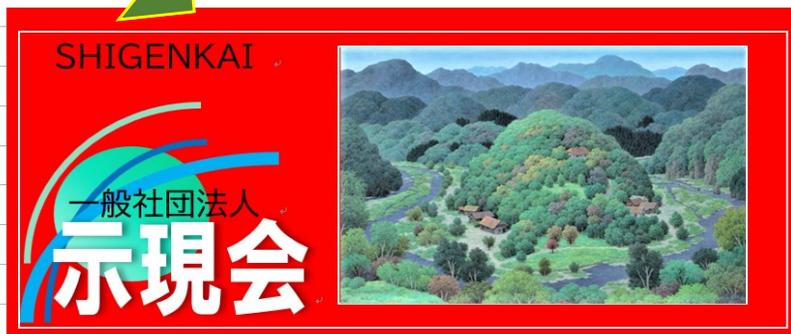


これが示現会のホームページのトップページになります。項目別にボタンがあります。詳しく内容を見たい場合は、ボタンをパソコンではクリック、スマホでタッチしてみてください

パソコンなら、そのまま「示現会」と入れるとすぐ出てきます

バーコードでも

スマートフォンなら検索で「示現会」と入れます。グーグルマイク検索では、「絵画団体 示現会」と言いますと「絵画団体 資源会」と出てきますが、**続けて**示現会のホームページが出てきます



事務局だより

20年度より発行された事務局だよりをみることができます

☆ 年間スケジュール

年度の計画、そして随時変更された表がみられます

☆ 事業報告

定時会員総会の報告です。年間の事業の内容がわかります

☆ 支部紹介

15支部の活動の様子が写真入りで載っています

☆ 展覧会の出展について

示現会展に出品する方法などがわかります

☆ 作品研究会

示現会会館で実施される作品研究会の案内です

☆ 絵画教室

示現会会館のアトリエを使い開催されている絵画教室の案内です。日程、担当講師などがわかります。

☆ コラム

春季研修写生会の様子、各地の写生場所の紹介、作者のモチーフの説明があります

☆ 関連リンク

示現会と関係の深い絵画団体、美術館などの紹介です。

メールでのお問い合わせ

メールで問い合わせができます。知りたい事、聞きたい事など、どのようなことでもお寄せください。



トップページ

事務局からのお知らせ個展の案内等、トピックスが中心になります

示現会とは

創立から現在までの歴史がわかります

展覧会情報

示現会展の役員、委員支部長、受賞した作品がみられます。個展の案内もあります

会員一覧

役員、会員、準会員、会友の氏名の一覧が載っています

絵画研究所

示現会会館で開講されている絵画教室、夏季講習会などの案内もあります

トピックス

示現会からのいろいろなお知らせが順に掲載されています

動画で74回展の会場の様子が見られます。

74回展では、ホームページからの出品応募や、ホームページに掲載された示現会展の案内を見て来場された方が大勢いました。もっと見やすく、楽しいホームページになるよう、皆様からのご意見をお待ちします。

動画会場案内

1室から7室

7室から14室

15室から21室

22室から29室

特集1

巡回展報告

熊本支部の巡回展の様子をお知らせします。

熊本展



熊本展、盛会裏に終了いたしました。昨年できておりませんでしたので何とか実施したいと準備を進めてきましたが、直前になって熊本県のコロナ感染者数が急増しました。準備がすべて終了して招待状の発送も終わっていたので、直前中止になるかと薄氷を踏む毎日でした。幸い事前に予約している美術館行事は実施してよいとのこと感染予防策を十分に実施しました。入館者も多く「このような素晴らしい展示会を久しぶりに観た」と大好評でした。

また、公募展は巡回展に負けない支部の大事業です。106名より127点の応募がありました。入賞16点、入選68点の合計84点を展示しました。

観覧者が密状態になり心配しました。公募展の方も大好評でした。

お陰様で無事にそして盛会に開催できました。有難うございました。

(熊本支部長 小材啓治)



特集2

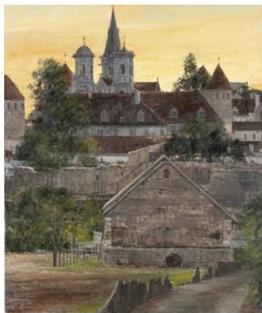
作品解説

74回展で出品された役員自身の作品を役員自身が解説します。具象の絵画は特にそこにある物と実際に対峙することが大切です。そこにあるものを見つめ、自分なりの解釈で描いていきます。構成、色等をどのように表現するかは、それぞれ自由です。解説が参考になりますでしょうか。

井上 武(常務理事)
街中を歩いていてちょっと気になる空気があつた。建物そのものであつたり、その建物を取り囲む空間であつたり、あるいはその空間にたむろしている人々のリズム感であつたり、都市の装置の形や色にも興味があつた。今回の町は浅草、中央の建物は東武鉄道の駅舎。中央の暗い入り口に人が吸い込まれるのが面白い。そして、その建物の前に広がる空間にたむろする人々。人はどこから集まりどこに行くのだろう。「コロナの町に人流変な日本語」は駄目だといふのに。



都市の景



ブルゴーニュの朝

今回の作品は、スミューターの街を描きました。朝陽に染まる大聖堂がシルエツトになる美しい様、広い牧舎からつながる城壁の街、大聖堂を描いた作品です。目線をどの位置に置くといいかと、作品の何を描くのが決まります。面と色、絵、全体の関係、物と物との関係が大切です。コロナ感染の中、2年ぶりの展覧会が開け、皆さんも力が入った事でしよう。全体に絵の具が付き、描き込みがあり、絵が良く見えたように感じました。

大淵茂樹(理事)
3年前にフランス、ブルゴーニュ地方、モレ、オートノ、スミュールをスケッチ旅に出かけました。

大淵茂樹(理事)
3年前にフランス、ブルゴーニュ地方、モレ、オートノ、スミュールをスケッチ旅に出かけました。



キャンバスの前で

石橋俊博(理事)

大きなキャンバスの前に立つ人物。それは紛れもなく作者自身です。いつもこんな風にして描いているのかと、いつもはこんな風にして描いてはいません。壁にキャンバスを立てかけて描いています。この大型イーゼルはハンドルで上下に動くようになっていたのですが、動かすのが面倒で、天井にぶつかってしまいがちで一番下の位置に固定しています。大きなキャンバスを乗せて描くことはありませぬ。床も奥行きがあつて広いところを描いているように見えますが、実際は奥行きもなく狭いところで描いています。奥に別の部屋があり、キャンバスやキャンバスマルがあるが実際は部屋はありません。広いところで描いているように見えるので誤解されそうだなと思つています。100円で人物を描いたのがまだ2作目。まだ試行錯誤です。

大瀧弘子(監事)

中国へは家人の仕事の関係で幾度となく訪れ、北京を中心に多く、石窟や古寺、古墓などを観て回った。特に大同の雲風石窟、洛陽の龍門石窟は強く印象に残る。険しい山肌には仏像を彫り、窟の内部の壁は仏画で美しく彩色されていた。色彩は鉱物、植物の顔料を用いたと聞いていたが長い年月を経て破損劣化が進んでいると云う。古い墓の壁には歴史上の人物の身分や生活様式の様子が官女侍女たちの優雅な容姿とともに表現されていて美しい。古代の官女侍女のたたくまに魅了され、ヒントをもらって画面の背景に描き、手前に今この時に咲き散る花々を配した。



壁画と花

皆さんからの一言を募集中です。自粛生活のこと、絵のこと、地域の様子など、お知らせください。メール先 佐藤祐治宛 1941sato@gmail.com なお、示現会のホームページの「メールでのお問い合わせ」でも投稿できます

